

午後 試験

問 1

問 1 では、ERP パッケージの特性及びその利用環境から抽出されるリスク、コントロール及び監査手続について出題した。設問の意図に沿わない解答が多く、全体として、正答率は低かった。

設問 2 は、初期インストール時以外には DB 用 ID を使用して作業をしなくて済むという、ERP パッケージ特有の状況を踏まえたコントロールを解答してほしかったが、一般的なパスワード仕様など、リスクに対応するコントロールを適切に記述できていない解答が多く見られた。また、ユーザ ID と DB 用 ID の違いを理解していない解答も散見された。

設問 3 は、申請がされないと元の部署で権限が削除されないことを読み取って、有効期限の設定などの予防的なコントロールの必要性を理解した解答を期待した。しかし、引継ぎ期間の必要性や役職に応じた利用権限の設定など、問題文を理解していないため正答を導けないケースが散見された。発見的コントロールよりも予防的コントロールの方がより確実にリスクを低減できることをぜひ理解しておいてもらいたい。

設問 4 は、外部保管データからリカバリできないというリスクに対するコントロールを問うているにもかかわらず、障害対策のコントロールや業務継続計画の策定など、本文や表 2 の内容と関係のない解答が多かった。

問 2

問 2 では、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度における財務報告の信頼性を確保するための内部統制の有効性の評価について出題した。

設問 1 は、自己評価の限界を踏まえて解答されており、おおむね正解率が高かった。しかし、入手したチェックリストの信頼性が低い理由やその解決策が具体的でない解答が散見された。

設問 2(1)では、未受信一覧表を利用した手作業の業務統制として、未受信一覧表が正確に出力されていることを前提に、未受信一覧表に出力された店舗への対処を含めて解答してほしかった。

設問 2(2)では、債権入金データの入力の内容の正当性について、店舗管理システムの利用者である A 社と店舗管理システムの機能の提供者である B 社の現実的な役割及び責任を理解すれば解答できる問題である。これに対し、B 社のコントロールとして、入力データの内容のチェックや責任者が承認したことの確認などの解答が散見された。

設問 3 は、スプレッドシートへのダウンロードの手順が記載されている事項は限られているので、おおむね正解率が高かった。ただし、題意と異なる情報の改ざんなどの正当性に関する解答やリスクの内容が明示されていない解答が散見された。

問 3

問 3 では、通信販売業の顧客管理システムを例にとり、コントロールを確認する監査手続や、情報システムに係るコントロールの不備について出題したが、設問 1 や設問 2 の正答率がやや低かった。

設問 1 は、名寄せ機能の不備を利用して意図的に注文限度額の制約を無効にすることがポイントであるが、意図的であることを理解していない解答が散見された。

設問 2 では、通信販売課長の許可を得ない特別注文が行われていないかどうかを確認するための監査手続を出題したが、特別注文申請書が存在しないケースを考慮していない解答や、通信販売課長が許可した証跡に言及していない解答が目立った。

設問 3(2)は、正答率が高く、“オペレータ以外の者”が情報システム部員であることを問題文中から読み取った解答が多かった。しかし、アクセスログの採取やチェックは発見的コントロールであるにもかかわらず、予防的コントロールと誤解して“不正アクセスを防止できない”というような解答も見受けられた。

問 4

問 4 では、システム開発の監査において基本となる知識を問うた。

設問 1 は、監査人の独立性問題について適切に解答している例は多かったが、抜き打ち監査の実施については、なぜ不適切かの理由があいまいなものも多く見受けられた。

設問 2 も正答率は高かったが、ユーザによるレビューの必要性そのものを理解できていない解答が散見された。

設問 3 は、問題文 1 ページにわたるコントロール状況の記述から不備と思われる点を探し出す問題である。意図的に複数の不備を組み込んでおいたために、正解を見つけ出すのはさほど困難ではなかったと思われる。多くの受験者が解答例に挙げたどちらかを解答していた。

設問 4 は監査手続の不十分さを問う問題であるが、“質問だけ”では不十分であることを指摘している解答は多かったものの、不十分である理由を記述できていない解答も多く見られた。